

ゲムシ死`ン+シスプラチン【泌尿器】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		デキスト注射液	【1日目、8日目、15日目 順番①】 副作用予防のお薬です
2		ゲムシ死`ン点滴静注	【1日目、8日目、15日目 順番②】 治療のお薬です。約30分かけて点滴します。
3		生食注 1L	【2日目 順番①】 シスプラチン注の前の補液です。腎臓への副作用を軽減するために点滴します。約4時間かけて点滴します。
4		デキスト静注+デキスト注	【2日目 順番②】 副作用予防のお薬です。
5		シスプラチン点滴静注	【2日目 順番③】 治療のお薬です。約2時間かけて点滴します。
6		マンニトールS注射液	【2日目 順番④】 シスプラチンの腎臓への副作用予防で投与する利尿剤です。約1時間かけて点滴します。
7		生食注 1L	【2日目 順番⑤】 シスプラチン注の後の補液です。腎臓への副作用を軽減するために点滴します。約4時間かけて点滴します。

内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
------	----	-------	---------

内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		イメドカール125mg	副作用予防のお薬です。2日目の シアラチン点滴1時間前に服用します
2		イメドカール80mg	副作用予防のお薬です。3日目以 降の朝食後に服用します

投与スケジュール

薬品名	日数																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
ゲムシタール点滴静注	↓							↓							↓													
シアラチン点滴静注		↓																										

ゲムシタール：1日目、8日目、15日目に投与します。

シアラチン：2日目に投与します。

コース：28日間の治療です。

GC（ゲムルビン+シプロ）療法【泌尿器】

よく起こる副作用

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日後に減少します。

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

●感染症：37.5℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など

●貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など

●出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。
○血が止まりにくくなることがありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

★悪心・嘔吐および食欲不振

発生時期 薬剤投与日～5日目位まで
※まれに、以前の化学療法後の嘔吐の体験が影響し、点滴の数日前からおこるものがあります。

症状 食欲が落ちたり、味覚の変化、においに敏感になったり、胃が重たく感じたりします。ときどき吐くこともあります。

対処法 ○治療の前に吐き気止めの注射を行います。症状によっては吐き気止めの内服薬を服用することもあります。
○脱水をおこさないように水はこまめにとるように心がけましょう。
○吐き気があるときは無理して食べる必要はありません。口当たりのよいものを少量ずつとりましょう。
○吐き気が強く食事できないときは、栄養や水分を点滴で補給することもあります。
○事前に吐き気止めの薬を点滴あるいは服用します。症状がでた後に、吐き気止めの薬を追加することもできます。

★静脈炎

発生時期 薬剤投与開始時～数日

症状 薬剤が投与されている血管にそって痛み、熱感、腫れ、発疹や違和感などが現われることがあります。

対処法 ○投与中だけでなく、しばらくしてから症状が現われることもあります。針を刺した部分に違和感を感じたら、直ぐにお知らせください。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★腎障害（シプロ）

★腎障害（シプロラフン）

発生時期 薬剤投与開始時～

症状 尿量が少ない、むくみが出る、体がだるい、赤みがかった尿がでる等の症状がでることがあります。

対処法 ○治療薬を投与中に腎障害を防ぐ為に、利尿剤により尿の量を増やすとともに、点滴で水分を補給します。
○こまめに水分を取るようし、トイレを我慢しないようにしましょう。
○尿意を感じたらがまんをしないで排尿をします。寝る前にも排尿をし、その際に水分も摂ってください。

★心毒性（心筋障害、心不全）

発生時期 薬剤投与日から1～数ヵ月後以内
※まれにそれ以降にも起こる場合があります。

症状 手や足首のむくみ、息切れ、動悸、胸の痛みなどの症状があらわれることがあります。

対処法 ○上記の症状が出た時はすぐに医師に連絡し、指示に従ってください。

★間質性肺炎

発生時期 薬剤投与後数日～数週間

症状 発熱、から咳、呼吸困難（息苦しい）、頭痛、倦怠感などの風邪のような症状があらわれることがあります。

対処法 ○起きる頻度はまれですが、症状の軽いうち（風邪のような症状）から治療する必要があります。

その他の副作用

★シプロラフンその他の副作用

症状 発疹、アナフィラキシー様症状、動悸、頻脈、むくみ、血圧低下、めまい、しゃっくり、便秘、下痢、軽度の脱毛、視覚障害など

対処法 症状があわれた場合には医師に知らせてください。

★その他

症状 □内炎、倦怠感、色素沈着、味覚異常 等

対処法 ○症状に応じて対症療法を行います。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するとき一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院（薬剤部）

